

別紙1

北杜市環境保全事業実施報告書

団体名	北杜市地球温暖化対策・クリーンエネルギー推進協議会
事業名	市内の植生調査及び保全と水資源利用調査及び新たな利活用の検討・推進に関する事業
事業概要 ※実施内容、事業期間等を記入してください。	<p>本件事業に関しては、地球温暖化対策としての CO₂ 削減の様々な取り組みが、国際的に呼ばれているなか、昨年日本政府は温暖化対策だけでは、既に気候変動などの影響から逃れることはできないとして、適応策を講ずるべきとの決定を下しました。また国際的には、地球環境も包括した持続可能な開発目標を掲げ、次代に向けた大きな変革を期待する動きとして、国連が 2015 年に SDGs を採択しました。この適応策と SDGs は今後地域の持続可能な取り組みとして、中心的な役割を果たしていくものと思われます。そこで、グリーン北杜の活動目的に係るところの、気候変動の影響による水・森林資源[特に水利用・植物(農作物含む)]への被害について検証し、地域における今後の市民の適応策とは何かを模索する事業として本件事業を実施しました。</p> <p>●事業の内容を次の 2 件の企画に区分して実施し、最後にこれらを関連付けた本件事業の総まとめを実施しました。</p> <p>①水資源利用の調査及び新たな利活用の検討・推進 ～全国唯一!!市内 3ヶ所名水巡り・・南アルプスの恵みと治水の歴史～</p> <p>②植生(在来種)保全のための調査及び対策 ～オオキンケイギクの分布概況調査及び駆除活動と取り組みの普及・啓発～</p> <p>※詳細は、別紙個別の報告書のとおりです。</p>

事業概要 (R元～R3年度総括)	<p>本年度は、コロナ禍の影響で意見交換会が開催できないことから、本年度事業の取組みの最終実施日となる令和4年3月11日において、参加会員に対するアンケートを実施し、総括をすることとしました。</p> <p>なお、記載要領は、アンケートの項目ごとの主な回答を踏まえ意見集約しました。</p> <p>まずは、市内の植生調査及び保全について、オオキンケイギクの分布調査及び駆除活動を3年間実施してきたことについて、駆除実施箇所の繁殖は目に見えて減り、駆除の成果があったものと判断できました。駆除活動以外の場所においては、市内の道路沿いに散見できる程度だが、標高の高い地区にも繁殖箇所があり、駆除活動を行う市民の目に留まらぬような箇所への繁殖が危惧されます。今後の駆除活動としては、活動を続行するとともにインターネットやSNS等を通じて市民に情報提供していくことや、温暖化に伴う平均気温の変化に合わせた駆除時期の設定についても統計を取っていく必要があると判断しました。また、現在作成が進行中の市内分布図(オオキンケイギク分布に関するマップ)については、今後経年変化をとらえながら継続して行っていくこととし、駆除活動の普及に留まらず、市内小・中学校における環境学習にも活用していくこととしました。最後に大きなテーマでもある市内植生全般に関する保全や各種産業とのリンクについて、林業家や市の林政などを巻き込み、さらなる専門性を取り入れた意見交換の場を作り、新たな活動にステップアップさせていく方針としました。</p> <p>二つ目の、水資源利用調査及び新たな利・活用については、市内3か所の名水百選箇所の保全状態にはらつきがあることや、個所数が広範囲且つ多数あり、把握が難しく経年変化の調査や保全の取り組みの妨げとなっていることなどが明るみに出ました。これについては市民の知名度が低い個所が多いことも影響していると判断しました。また、現在名水3ヶ所の活用については、水量の豊富な個所の利用度は高く歴史も古いことから、地元の人たちの保全活動が一つの行事や年度事業として受け継がれている実態も明らかとなり、現在では祠のみが残る箇所もあれば、今多くの住民がこうした活動を引き継いでいる箇所もあり、如何ともし難い現実に直面しました。こうした規模の大き</p>
---------------------	--

な個所もやがては時の流れの中で薄らいでいくことも憂慮し、現状を記録していくことや、寂れた箇所の史実などを深堀し記録していく必要があるとしました。

なかでも、特に個所数が多い八ヶ岳南麓湧水群については、現在所在マップをデータ化する作業中で、今後の環境学習や保全活動に役立てていくこととしました。

最後に市内全域の水資源の保全や利・活用について、年々水量が減少していくことが懸念されることから、河川の支流に至る源流部までの調査と市民に対する現状の周知、保全活動を啓発していくこと、また再生可能エネルギーとしての小水力発電設備の普及・啓発事業の積極的な展開や、農業用堰等についての史実を調査し観光資源につなげていくことも重要であるとしました。

市内の植生の保全や水源の涵養、河川の清掃活動などは、貴重な水資源を守るために欠かせないものであり、このさき温暖化や人口減少によって、これらの貴重な資源が失われていくのを防がなければなりません。また、この取り組みは市民のみならず他の自治体をも巻き込んでいくことが有効であり、専門家の意見と地元市民の協力のもと、後世に引き継いでいかなければならず、「水資源」を護る取り組みの是非が、そのまま「水資源」の存亡につながるものであると言うことを、深く実感させられる事業がありました。

1 収入の部

内 訳	決 算 額
他の補助金・助成金	
参加料	25,000
寄付金・協賛金	
その他	
小計(B)	25,000
自己負担金	169,107
合 計	194,107

2 支出の部

(単位:円)

内 訳	決 算 額
報償費	15,000
旅費(委託)	141,000
消耗品費	6,594
食糧費	24,000
保険料	7,513
合 計 (A)	194,107

※ 収入の合計と支出の合計は一致させること

補助金交付額(G)

112,000 円	$G = (A - B) \times 2/3$	ただし、補助金 交付決定額以下
-----------	--------------------------	--------------------

事業実施に関する資料①

1. 企画名称	水源・河川の保全と水資源利用の調査及び新たな利活用の考查・推進ツーリズム ～全国唯一!!市内3ヶ所名水巡り・・南アルプスの恵みと治水の歴史～			
2. 担当部会名	北杜グリーンツーリズム推進部会			
3. 目的・実施内容	<p>初年度「名水百選 瑞牆・金峰源流部バスツアー」に続き、昨年度は「名水百選 八ヶ岳南麓湧水群」の全体像を地図上に描き、身近で知られていない湧水を歩きました。今年度3年目は、「名水百選 尾白川」を中心に南アルプスを水源とした「釜無川・尾白川・大武川」を天然水として愛される水の側面と災害からの治水による今の生活の側面の両方から注目し、今後へつながる地域の保全活用、郷土知識を深めることや郷土愛の醸成について考察および意見交換を行いました。</p> <p>今年度の事業は、コロナウィルスの感染拡大を受け、当協議会会員のみを対象として規模を縮小し実施しました。</p> <p>当日の行程は以下の通りです。</p> <p>①尾白川名水公園べるが 公園内で温泉水を煮詰めて 塩をつくっている（実演）見学。この塩を使っての商品化視察。併設となったキャンプ場施設の見学。</p> <p>②NXアグリグロウ 野菜工場見学</p> <p>③地元ガイドと一緒に地域を散策・検証。横手駒ヶ岳神社からめぐり、横手堰大武川の支流について散策・検証する。水の恵み白州と治水の武川の違いを地形、地質から観察、確認する。</p>			
4. 日時	令和4年3月11日 金曜日 9時集合・解散17時 白州総合支所駐車場			
5. 対象地区	北杜市白州町・武川町			
6. 参加人数	グリーン北杜会員10名			
7. 決算額	192,463円			
*主な内訳	【収入】		【支出】	
	参加費@2500x10人	25,000	旅費（委託費）※旅行取扱料、企画料、バス貸し切り、施設見学料等	141,000
	自己負担金	167,463	食糧費	24,000
			謝礼（ガイド料等）	15,000
			消耗品（体温計）	4,950
			保険料	7,513
	合計	192,463	合 計	192,463

	<p>9:00 集合/場所：白州総合支所駐車場 （バス乗り合わせ移動研修）朝の会出発</p> <p>9:15 べるが公園にて塩つくり実演見学。公園内徒步移動 キャンプ場視察</p> <p>10:00 NXアグリグロウ施設内見学、質疑応答。集合写真撮影。</p> <p>11:15 真原散策、電動モビリティ体験。</p> <p>12:00 真原アグリーブルむかわ「駒ヶ岳スキレット」食事、食後施設見学</p> <p>13:15 移動 13:30 せせらぎホール ガイドと合流。</p> <p>せせらぎホール内災害の記録写真見学→釜無川・大武川合流ポケットパーク→武川たんぼ道→14:00 駒城橋東詰（19号台風増水跡見学）→大武川左岸車窓見学→14:20 篠沢大滝キャンプ場（横手堰取入口）地区の堰清掃作業と出会う→15:00 横手駒ヶ岳神社 バスを降りて歩く→甲斐駒登山道入り口（靴種子落としマット確認）→15:25 駒ヶ岳神社参拝→二番観音→横手堰確認→巨摩神社、一番観音→16:00 横手公民館バス乗車→バス移動西村入口→関の桜経由→下水処理場下、横手堰の落ち口確認→県道を移動して、大武川を渡り石空川を橋の上から見る→せせらぎホールガイドと別れ→17:00 白州総合支所に戻り解散</p>
8. 見学先と行程	

令和3年度環境保全基金活用事業 実施報告 (添付資料)

9:00 集合時の健康確認と消毒作業



出発前の朝の会とバスの中の感染症拡大防止策の様子



9:15 名水公園べるが 訪問 塩つくりの実施見学と体験



10:00 NXアグリグロウ㈱訪問見学

施設概要の説明と 施設内見学、出荷までの流れを見学



11:15 真原散策 電動モビリティ体験



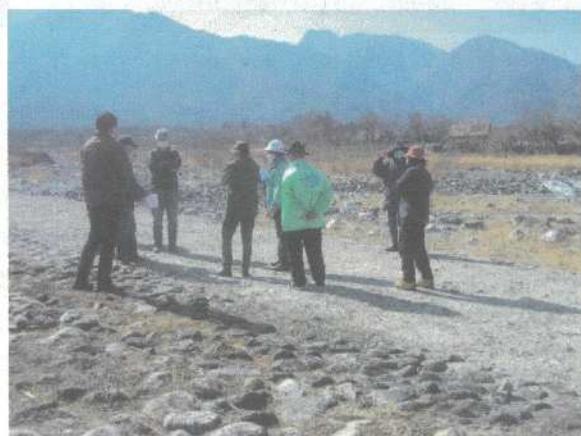
12:00 真原アグリープルむかわ「駒ヶ岳スキレット」食事、食後施設見学
パーテーション設置と貸切の為 ひとテーブルに対面2名で食事 食事の説明あり



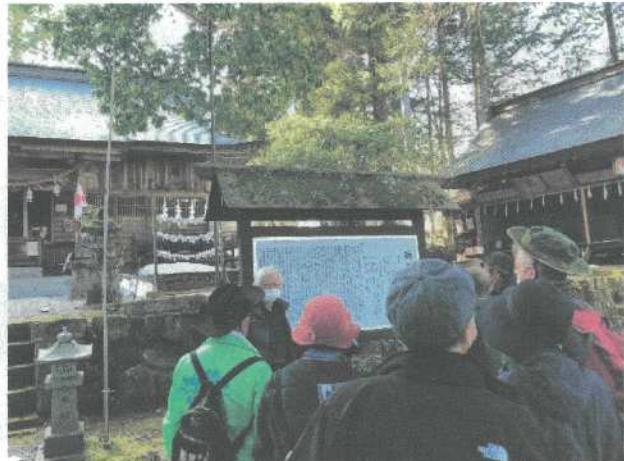
13:30 せせらぎホール 散策ガイドと合流 災害記録写真を見る
車内の時間を使って、地質、地形などの説明があり、実際の現場を見る



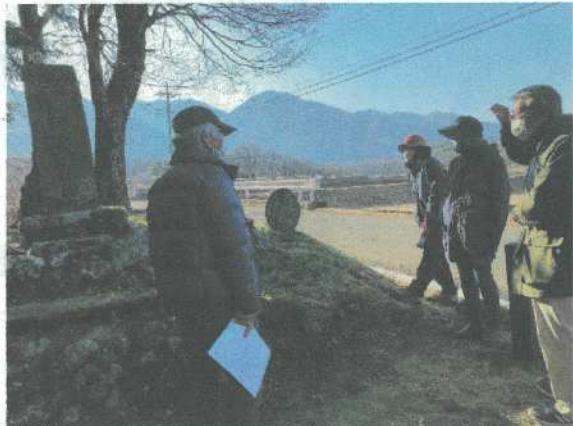
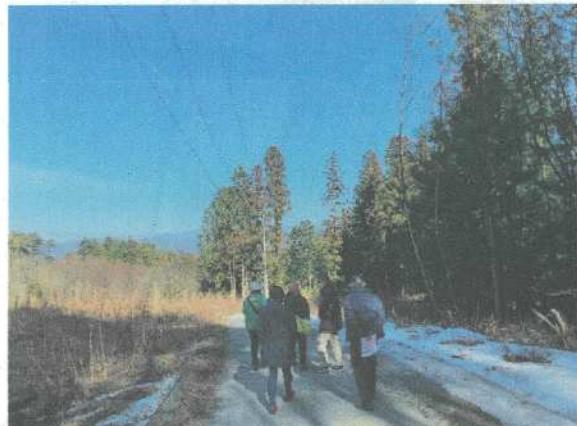
14:00 駒城橋東詰から 大武川の川の様子を見る
災害当時の記録写真と現場を見比べることができるような説明



15:00 甲斐駒ヶ岳登山口の靴マットを確認（温暖化対策部会啓発活動）
横手駒ヶ岳神社参拝



駒ヶ岳神社から横手の田んぼ脇を歩きながら、登山道2番観音、巨摩神社



この後、横手公民館まで歩いて、バスに乗車。

その後は バス移動。

車窓から、堰の流れを追って 川への落ち口を確認。

最後に 大武川に合流する前の石空川の護岸設備を橋の上から確認。

大武川の護岸設備との違いを確認。合流点での土砂の流出の理由を確認。

今後の課題として石空川の整備と思うが、自然との戦いでもあり、人間としてどうしたらよいか考える課題である。せせらぎホールでガイドと別れ、アンケート記入して、解散。無事に終了。

事業実施に関する資料②

1. 企画名称	植生（在来種）保全のための調査及び対策 ～オオキンケイギクの分布概況調査及び駆除活動と取り組みの普及・啓発～			
2. 担当部会名	地球温暖化対策部会			
3. 目的・実施内容	<p>昨年に引き続き外来生物の繁殖による自然環境への影響から、北杜市の宝とも言える水源を保護するため、市内植物の外来種対策及び在来・固有種の保護活動、自然環境保全の普及・推進活動を行いました。</p> <p>内容については、特定外来植物（オオキンケイギク）の侵入や繁殖を防ぐための駆除作業および、北杜市内のオオキンケイギク分布調査を行いました。</p> <p>年度当初に計画していた、駆除作業への一般市民の参加や、自然観察会については、新型コロナウイルス蔓延防止によるイベント実施の制限を受けて見送ることとしました。</p>			
4. 日時	令和3年5月23日　日曜日　9時集合・解散12時			
5. 対象地区	北杜市（高根町、大泉町、武川町）			
6. 参加人数	8名　グリーン北杜会員（7名）、事務局（1名）			
7. 決算額	1,644円			
*主な内訳	【収入】		【支出】	
	自己負担金	1,644	消耗品（廃棄用袋）	1,644
	合計	1,644	合計	1,644
8. 見学先と行程	<p>9:00～ はじめのあいさつ</p> <p>9:10～ 釜無川橋河川敷（武川町）、県道八ヶ岳公園線（大泉町）、たかねの湯前（高根町）に移動し駆除開始</p> <p>11:40～ 作業終了</p> <p>11:50～ 片付け、解散</p> <p>駆除成果 軽トラック1台分（45L袋×15個）</p>			

<朝のあいさつ（市役所）>



<各エリアにおける駆除作業>



<駆除成果>

